



肝ぞう通信

2025 年度 第 5 号 《 原発性胆汁性胆管炎について 》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。

当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院 1 階
総合相談室

受付時間：（休診日は除く）
月～金：9:00～15:00
土（第 1・3・5）：9:00～12:00

豆知識

原発性胆汁性胆管炎は比較的にまれな病気ですが、肝機能障害の原因として重要な疾患です。早期診断、早期治療が大切です。

次回号

テーマ：
ポリファーマシーについて
（予定）

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

原発性胆汁性胆管炎とはどのような病気ですか？

原発性胆汁性胆管炎は、慢性進行性の胆汁うっ滞性肝疾患です。肝臓の中のとても細い胆管が自己免疫学的なメカニズムにより破壊され、胆汁の流れが通常よりも滞ってしまい、血液検査をすると ALP や γ GTP などの胆道系酵素が高い数値になります。さらに、血液の中に抗ミトコンドリア 抗体（AMA）という自己抗体が検出されるのが原発性胆汁性胆管炎の特徴です。この病気は英語では Primary Biliary Cholangitis といい、頭文字をとって PBC と呼ばれます。

どのような症状がでますか？

多く（70 ～ 80%）の患者さんに自覚症状はなく、このような状態は無症候性 PBC と呼ばれます。無症状で健診などの血液検査から発見されることも少なくありません。

20 ～ 30% の方に症状が表れますが、特徴となる症状は皮膚のかゆみ、倦怠感です。かゆみは皮膚に発疹が出ません。また、骨粗鬆症や関節リウマチ、シェーグレン症候群（口や目の乾燥）、甲状腺疾患（橋本病など）の合併も多いです。